

全国家庭養護推進ネットワークとは

家庭養護とその関連分野の関係者相互のネットワークの構築・強化を図るとともに、実効性のある施策について、志ある方々が、それぞれの主体間の垣根や主義主張の相違を超え、横断的に交流、討議するプラットフォームとして設立したものです。

共同代表



相澤 仁

山梨県立大学・大分大学
特任教授



潮谷 義子

社会福祉法人恩賜財団済生会 会長
社会福祉法人慈愛園 相談役
元熊本県知事



柏女 霊峰

淑徳大学
総合福祉学部
特任教授

我が国の社会的養護は、今、大きな転換期を迎えつつあります。

令和5年4月、こども家庭庁が発足し、社会的養護を含めたこども関係の政策がこども家庭庁に一元化され、そのこども家庭庁の下で、令和6年4月には、改正児童福祉法が施行されました。

その中では、様々な新たな施策、事業が施行されるとともに、一つの大きな政策の流れとして、子どもたちへの「パーマネンシー保障」－狭義の社会的養護における特別養子縁組等の施策だけではなく、地域の子どもたち・子育て家庭に対する家族維持支援・家族再統合のための支援を積極的に行うことを含めた「パーマネンシー保障」が、強く打ち出されています。

また、今年度は、社会的養育推進計画の見直しの時期でもあります。各自治体では、改正児童福祉法の施行とともに、社会的養育推進計画の見直しを進めています。

加えて、これまでのFLECフォーラムでも再三にわたり議論されてきた、子ども・子育て支援分野全体における人材の育成確保とそのための財源の問題は、こども家庭庁の最大の課題だと言っても過言ではありません。

このような、我が国の未来にとって最も重要な政策を、実際の子どもたちの養育の現場において推進していくためには、国の政策や予算、努力だけではなく、里親、ファミリーホーム、施設、児童相談所、民間養子縁組あっせん機関、フォスタリング機関、学会、行政、メディアなどの様々な関係者が相互のネットワークを構築・強化しながら、それぞれの現場で関係者が共通認識の下、密接に協力して具体的な対策に取り組むことが必要となります。そして、そのネットワークを、障害児施策や子育て支援施策、母子保健施策、学校教育等にも拡大し、連携と協働を深めていくことも、ますます重要性を増してきます。そのためには、こうした子ども関係の施策に携わる志ある方々が、広く参集し、理念や哲学だけではなく、人材や予算の確保も含めた実際の政策に繋げていくための議論を、可能な限り本音で率直に行うことができるような、プラットフォームが必要となります。

FLECフォーラムは、このような基本的認識の下に、すべての子どもたちに家庭での生活を（Family Life for Every Child: FLEC）という思いをこめて、2019年から毎年開催してきました。

今回が第7回目の開催となりますが、これもひとえに、「全国家庭養護推進ネットワーク」に設立発起人として集っていただいた各界各層の皆様、幹事や事務局としてフォーラムの運営に直接関わっていただいた皆様、登壇者の皆様、そして何よりも各回にご参加いただいた参加者の皆様のご支援とご協力があったからこそです。そのことに深く感謝申し上げます。

さて、今年度のフォーラムでは、「パーマネンシーを踏まえた家庭養護の推進」をメインシンポのテーマとしています。パーマネンシーとは何かを明確にしつつ、自治体における社会的養育推進計画の見直しについて、パーマネンシーの考え方を踏まえた家庭養護推進の方策を盛り込んでいる計画や取組みの紹介を予定しています。

また、プレセッションや分科会、特別シンポジウムにおいては、改正児童福祉法の施行の課題や推進方策を検討するほか、今後の制度改正を見据えたテーマや、これまで深く議論されてこなかった課題についても先駆的に取り上げ、率直な議論ができればと考えています。

さらに、特別講演では、社会的養護の子どもたちの養育のあり方を取り上げるとともに、クローージングシンポジウムでは、インクルーシブ保育をテーマとし、その実態・課題・論点等について、海外の状況も踏まえて、日本でのあり方を検討する先駆的な議論が行われることを期待しています。

このネットワークとフォーラムが、わが国のすべての子どもたちの未来を切り拓く一助となることを切に願っております。